

作成日：2012年5月20日

作成者：栗原瑞穂

## Youth for Ofunato

### 2012年GWボランティア派遣報告書

1. プロジェクト概要
2. 全体のスケジュール
3. 各日活動報告
4. 参加者 個人レポート
5. 会計報告

## 1. プロジェクト概要

▼実施プロジェクト名称「仮設住宅団地のコミュニティ形成プロジェクト」

(特定非営利活動法人チャイルド・ファン ド・ ジャパン大船渡市復興支援プログラム)

2011年夏のボランティア期間中に行った青山学院と認定 NPO 法人チャイルド・ファン ド・ ジャパンとの共同活動において、仮設住宅の方々と関わっていく中で、人と人とのつながりがこの地域の復興にとって非常に重要なことが判明した。そこで、人々がコミュニケーションをとる場を作り、特に仕事もなく閉じこもっているお年寄りを外に連れ出し、活動、交流をしてもらうことを目的とする。

3月に行った活動の継続として仮設住宅近隣の土地を使って畑づくりをする。畑づくりを通して仮設住宅に引きこもりがちな方々が外に出てきて活動する機会を提供し、コミュニティ形成の一貫となることを目的とする。畑を作るという作業を通して、気分転換にもなり気軽に参加できる活動にしたい。さらに春からは作物を植えて継続的に畑へ出てきてもらい、仮設住宅の方々の間で協働して使い道を考えて運営していくことをねらう。

協力団体	チャイルド・ファン ド・ ジャパン、友結ファーム委員会
実施期間	2012年5月2日～5月6日
支援対象	長洞仮設住宅団地の住民

▼参考 URL

Facebook:<http://www.facebook.com/pages/Youth-for-Ofunato/243478975712594>

Twitter:@YouthforOfunato

▼参加者 (計4名)

永田光央 (Youth for Ofunato 代表、国際政治経済学部 3年)

泉まりな (国際政治経済学部 3年)

栗原瑞穂 (国際政治経済学部 3年)

上野友美 (総合文化政策学部 3年)

## 2. 全体のスケジュール

5月1日（火）

▼永田

池袋発の夜行バスにて越喜来へ出発

5月2日（水）

▼永田

越喜来到着後、拠点へ移動

友結ファームでの作業参加

▼残りのメンバー（泉、栗原、上野）

池袋発の夜行バスにて釜石駅へ出発

5月3日（木）

▼上記3名

釜石駅到着後、越喜来の拠点へ移動

永田と合流

▼以下、全員

友結ファームでの活動に参加

5月4日（金）、5月5日（土）

友結ファームにて活動

5月6日（日）

友結ファームにて活動

大掃除、荷造り

釜石駅発の夜行バスにて池袋へ出発

### 3. 各日活動報告

1日目（5月2日）

#### ▼本日のタイムスケジュール

7:00 大船渡到着

7:30 拠点到着

9:00 出発

9:20 コミュニティファーム（長洞仮設住宅団地内）において種まき

12:00 お昼休憩

13:00 引き続き種まき

16:00 拠点到りかへて出発

19:00 夕飯

20:00 自由時間

#### ▼活動報告

本日、Youth for Ofunato はゴールデンウィーク期間中における大船渡での現地活動を始めました。朝の9時頃から長洞仮設住宅にある共同菜園（コミュニティファーム）に住民の方々10人ほどが集まり、以前から告知していた種植えをしました。ほうれん草、小松菜、大根などを植えながら、途中ベンチでの休憩も挟みつつ、皆さん楽しそうにコミュニティファームの種植えを行いました。明日からはYouth for Ofunatoのメンバー3人も合流し、活動を本格的にしていきます。

（国際政治経済学部3年 Youth for Ofunato 代表 永田光央）



作業を終え、住民の皆さんと一緒に撮影しました。

2 日目 (5 月 3 日)

▼本日のタイムスケジュール

- 9:30 新メンバー釜石駅到着
- 10:30 新メンバー拠点到着、被災映像視聴
- 11:30 昼食 (拠点)
- 12:30 視察出発 (陸前高田、大船渡)
- 14:45 YS センターにて CFJ スタッフと顔合わせ・概要説明
- 16:00 長洞仮設住宅のファーム看板の回収 (明日修正作業を行う)
- 16:15 買い出し
- 17:00 拠点到着
- 19:00 夕食
- 20:25 ミーティング開始
- 22:10 ミーティング終了

▼活動報告

前日に大船渡に入った Youth for Ofunato 代表に加え、新たに 3 人のメンバー (うち 2 人は昨年夏季休業中の活動の経験者) が加わりました。あいにくの雨の影響で、予定していた友結ファームでの作業を見送り、陸前高田市と大船渡市の視察に行ったところ、プレハブの商店がいくつか立ち並んでいるのが見え、以前よりがれきが片付いている印象を受けました。一方で、海に近い場所ほど建物の状態は以前とあまり変化がないように思います。かばんやランドセルが落ちている光景は復興がなかなか進まないことを表しているようで、心が痛みました。映像の中に出てきた場所を実際に訪れて、「ここであんなことが起こったんだ...」と思うのと同時に、やはり「信じられない」という気持ちが残ります。MTG でそれぞれが述べた今回の活動の参加理由や目的を意識しながら、明日以降の活動に繋がっていきます。

(国際政治経済学部 3 年 栗原瑞穂)



陸前高田市内の様子。

3日目（5月4日）

▼本日のタイムスケジュール

- 7:30 起床
- 8:15 朝食
- 9:00 看板（5枚）のデザイン・作成
- 12:30 昼食
- 13:30 話し合い（黒板と掲示板に何を書くか、ポスターを作るか）
- 15:30 越喜来拠点出発
- 15:45 長洞仮設住宅到着・板を5枚設置（ただし、1枚はスタンドが足りなかったため、予定のバス停ではなく集会場前の掲示板に設置）・設置物や設置場所のチェック
- 16:30 長洞仮設住宅出発
- 16:35 買い出し
- 18:30 夕食（刈谷さんにお話を伺う）
- 21:00 ミーティング開始（ポスターを作るか、ポスターの内容、今日の反省）
- 23:00 ミーティング終了

▼活動報告

午前中は、前日に回収した看板を（ペンの色が日差しで褪せてしまったため）、ペンキで塗り替え、更に新しいものを1枚作成しました。それぞれの看板を置く場所や、それを見る人の状況を考えつつ、載せる内容を決めました。午後は、黒板と掲示板それぞれの役割について話し合い、その結果、①黒板はまだ参加したことのない人が来やすいように、②掲示板は既に参加している人が具体的な日程や活動内容を書くためにという結論に至りました。その後、仮設住宅にて看板の張替えと集会場まわりの視察を行いました。この時、住民の方とお話し、おかずの差し入れをいただきました。ミーティングでは、ポスターを作ることに決定し、その内容を検討しました。今日は一日を通し、看板・黒板・掲示板・ポスターといった媒介を通して、いかに住民の方に注目してもらい・知ってもらい・参加してもらおうかという事について考えました。一番伝わりやすいように内容や表現方法をみんなで話し合いましたが、非常に難しかったです。5日の内に、ポスターを完成させる予定です。

（国際政治経済学部3年 泉まりな）



悪天候のため、午前中は拠点にて看板の修正作業を行いました。



(左) 完成した看板を設置しに長洞仮設住宅へ。

(右) いつも活動に参加してくれる子どもと追いかけてっこ！

4 日目 (5 月 5 日)

▼本日のタイムスケジュール

- 7:30 起床
- 8:15 朝食
- 9:00 コミュニティファーム入口の門を製作活動
- 12:00 昼食
- 12:40 剥がれてしまったコミュニティファーム看板の修復
- 13:00 コミュニティファーム入口の門製作活動
- 14:30 コミュニティファーム敷地内の階段製作
- 16:30 活動終了 (門製作 80%完了、階段製作 90%完了)
- 16:35 買い出し
- 19:00 夕食
- 21:00 ミーティング開始
- 22:30 ミーティング終了

▼活動報告

活動 3 日目となる今日は、友結ファームでの活動が中心でした。門の扉の作成と設置、ファーム内の階段の整備を、住民の方々と行いました。昨日までの悪天候により、畑の状態が良くなかったせいかもしれませんが、人の出入りが少なかったように感じました。作業は順調に進み、目標であった門の設置を行うことができました。また、1 人 1 人が自分なりの課題を意識しながら活動していたと思います。それによって各自の考えが整理され、その結果お互いの考えを共有しやすくなりました。明日が最後の活動日なので、自分にできることと、求められている動きができるようにしたいと思います。

(総合文化政策学部 3 年 上野友美)



住民の方と共に門を製作中。



5 日目 (5 月 6 日)

▼本日のタイムスケジュール

- 7:30 起床
- 8:15 朝食
- 9:00 コミュニティファーム入口の門のペンキ塗り
- 12:00 昼食
- 13:30 コミュニティファーム入口の門製作作業
- 14:30 活動終了 (門完成、階段完成)
- 15:00 拠点清掃、荷造りなど
- 18:00 ミーティング (GW 活動の振り返り)
- 19:00 夕食
- 20:00 東京へ出発

▼活動報告

活動最終日となった今日は、友結ファームでの活動が中心でした。門の扉の完成と階段の整備を目標として、きれいに木目が出るようなペンキで門を塗り、いつも親しくしてくださっている越喜来の方や、コミュニティファームによく来てくれる子どもたちと一緒に活動しました。ゴールデンウィーク中の活動により、収穫に向けた種植え、入口門の製作、階段作りなどをすることが出来ました。この活動を通した人との触れあいが何よりも大事だったように思います。私たちは物を作るためだけに大船渡へ行っているのではなく、人を相手にした支援を行い、コミュニティ形成を通した住民の方々の自立を目指して活動しています。東京の大学生が大船渡に来て、頑張っている姿を見た住民の方が「若い人たちが汗水垂らして、頑張っている姿を見て私も何かしないといけない」と言ってくださったことをよく憶えています。人が前を向くきっかけ、復興に向かうきっかけになるようこれからも活動を続けていきます。私は東京に今晚の夜行バスで帰りますが、日常の中で大船渡に関わっていくのだと思います。どうかこれからもよろしくお願いします。

(Youth for Ofunato 代表 永田光央)



(左) 春期派遣メンバーが制作した看板の塗り直し。  
(右) 完成した門に防水防腐効果のあるペンキを塗りました。



住民の方の協力を得て、門が完成しました！

## 4. 参加者 個人レポート

国際政治経済学部 国際政治学科 3年 永田光央

### 【反省と改善策】

#### 活動前

- ・企画が持ち上げてくるのが、2週間前ほどだったので準備する時間があまりに少なかった。バスケットの予約にしても、予定がぎりぎりだったので、入手が困難になっており、当初の予定する日程からずれてしまう危険があった。  
⇒あらかじめスケジュールを決めておくこと。余裕をもった計画が必要。バスケットの管理は、参加者自身に管理して頂くか、団体として管理するのもう一度検討すべき。団体が管理する場合には、キャンセル料などの規定を設ける。
- ・事前知識、現地で活動する NGO との連絡不足があった。派遣中の活動内容や、現地の状況など、事前に集められる情報はあったように思う。  
⇒現地とのつながりを増やしておくこと。現地で受け入れてくれる NGO 側との連絡を密にして、確認すべきことをしっかりと聞いておくこと。
- ・参加者募集方法に限界がある。SNS を利用した参加者募集を行ったが、最低限の人数しか集まらなかった。(募集時期が日程間近であったことも一因)  
⇒SNS 以外の募集方法を探るべき。

#### 活動中

- ・学生同士のコミュニケーションが足りなかったために、活動での目的意識がメンバー間でずれていることがあった。  
⇒学生だけのミーティングなどを開いて、意志疎通を図る。

#### 活動後

- ・参加者が活動のフィードバックをする場がない。  
⇒派遣終了後に参加者で振り返りミーティングを開いた。  
⇒参加者それぞれが反省と印象に残ったことをレポートにする。

### 【印象に残ったこと】

- ・ 陸前高田と大船渡に視察へ行った際、昨年の夏と比べて両市に復興の差があるように思いました。陸前高田は、震災当初は自衛隊などが活発に入っていたこともあり、瓦礫が片付いていくのはやかったようですが、瓦礫が片付いた更地をどう使っていくかに問題があり、どうもそこから次のステップへなかなか進めていないようです。一方で、大船渡を見てみると、陸前高田と地形的にも違い、近くに山などが多いことから、津波がきたとしても避難することができるので、更地になった部分に仮設商店街や仮設事務所などが出来ており、少しずつですが、住から工業、商業へと復興は進んでいるように感じました。
- ・ 仮設住宅で活動中に変化を感じたのは、昨年に比べて住民の方が自主的に活動していることでした。仮設住宅の近くに共同菜園（コミュニティファーム）を整備することで、ボランティアがいなくとも、住民の方は朝からファームに来て活動していることもありました。以前では、ボランティアなどが呼びかけないとなかなか出てこなかったことを考えると、大きな変化だと思います。

## 【反省と改善策】

### 活動前

- ・大船渡や震災に関する知識が足りなかった  
⇒派遣前に参加者全員で勉強する機会をつくる
- ・メンバーが打ち解けるのに僅かながら時間がかかった  
⇒派遣前に交流を持つ機会をつくってはどうか

### 活動中

- ・メンバー同士の共有ができていなかった  
⇒メンバーのみでの小さなミーティングをする、「わかっているだろう、恐らくそうだろう」ではなくひとつひとつ結論を確認しながら話し合いを進めるくせをつける
- ・Facebookの報告内容が、人によってばらばら  
⇒無駄や洩れを防ぐために、フォーマットを作ってはどうか

### 活動後

- ・東京に戻ったらすぐにミーティングを開くべき  
⇒事後ミーティングの日程を、派遣前にあらかじめ決めておいてはどうか

## 【印象に残ったこと】

私は、今回の派遣メンバーで唯一の初参加者でした。実は、私はこれまで、お金にも能力にも限界のある大学生が現地で本当に役に立てるのか、と心のどこかで疑問に思っていたのです。しかし、現地に行って感じたのは、私たち大学生がやれる事であり、またやるべき事は、目の前の一人一人の人間と向き合い、一緒に時間を過ごすという事でした。子供たちとくたびれるまで遊んだり、被災の苦しみを少しでもわかろうと耳を傾けたり、一緒に作業をしたり、あるいは他愛もない話で笑ったり。それが僅かでも楽しい記憶になったり、人と人を結びつけたり、前向きに生きる後押しになればいいと思います。そして、それは決して一方的なものではないし、そうであってはならないと思います。

私は、また必ず大船渡に行きたいです。大船渡に行きたいというよりも、大船渡の人々にまた会いに行きたいという方が正しいかもしれません。そういう気持ちがある限り、震災の事は決して忘れないし、より真剣に捉える事ができます。大学生が現地に行って何かをやっても、目に見える形で結果を残すのは難しいかもしれません。しかし、現地を訪れ人々と交流を持つ中で、相互にプラスになる事は少なくはないのだと感じました。だからこそ、現地に行った事のない人にこそ、私たちの組織を通して現地を訪れて欲しいです。そのために今後は活動していきたいと思います。

## 【反省と改善策】

### 活動前

- ・大船渡の現状をよくわかっていないまま現地に行ってしまった。  
⇒派遣前に参加者勉強会を開き、復興の具合やニーズを把握する。  
(参加者で「仮設住宅の様子」「町の様子」など、テーマを分担し、発表し合うなど。)
- ・十分なボランティアについての知識がないまま活動を始めてしまった。  
⇒派遣前に関連書を読んだり、被災地ボランティア経験者の話を聞いたりなどの作業に力を入れる。
- ・以前の活動の参加者は、その振り返りをしておくべきだった。  
⇒反省点を生かしたよりよい活動に結び付けられる。

### 活動中

- ・メンバー間で、情報や目的の共有ができていない場面があった。  
⇒ミーティングの際に全員がきちんと把握しているかの確認をする。
- ・住民の方に挨拶ができない時があった。  
⇒作業中でももう少し周囲に気を配り、積極的な挨拶・声かけを行うことを心がける。
- ・活動を進めるのに必要な検証を自ら考え、実施することが必要。  
⇒私たちの活動は決して1人で行われるものでない。一つのことを各々が考え、何度も自らに問い、その活動の目的を明確にし、それを全体で共有する必要がある。

### 活動後

- ・参加者のみで反省会を行ったが、少し時間が空いてしまった。  
⇒派遣前に、派遣後の活動予定を明確にしておく。(反省会、全体ミーティングでの報告、報告書作成期限などの設定)
- ・活動内容、感想などを Youth for Ofunato 以外の人にも広めたい。  
⇒SNS での情報共有だけでなく、ほかの手段も考えていきたい。

### 【印象に残ったこと】

ひとつひとつの作業において、その目的を何度も自分に問い続け、明確にすることが、非常に重要なことだと感じました。今回行ったファームの看板・ポスター作成は、正直、すぐにできることだと思っていました。しかし、先述のようなプロセスを踏まないと、本当に伝えたいことを絞り込むことはできませんでした。それぞれ異なるバックグラウンドを持つ人々が、ひとつのことに向けて皆で取り組むからこそ、このプロセスが重要であり、面白いのだと思います。今後は、被災地支援の活動に関わる者として、ひとつのひとつの活動にもっと真剣に向き合っていこうと強く思っています。

また、夏期の活動で出会った方との再会も印象に残っています。その方に「もらい慣れ」の現状や、十分すぎる物資援助、また、すべての漁業の再開は厳しいことなど、被災した方の生の声を聞かせていただき、改めて震災の深刻さを感じました。

私たちは今後も大船渡に関わっていきますが、その姿勢は、これまでのものと少し異なるものだと思います。「ボランティア」というと、誰かのために何かを「してあげたい」という思いから何らかの活動をするもの、という印象を強く受けます。しかし実際は、その人と「関わりたい」「共に何かをしたい」という素直な気持ちが我々を動かしていくのではないのでしょうか。それは、そう感じさせてくれる「人と人とのつながり」があるからなのだと思います。大船渡でできた「人と人とのつながり」を大切に、今後も活動を続けていきます。

## 【反省と改善策】

### 活動前

・友結ファームについての知識や、前回の派遣の反省等を引き継がないまま現地での活動に入った。

⇒派遣前にワークショップを開催し、活動の目的やこれまでの引き継ぎ内容をメンバーで共有する。それにより現地での活動がよりスムーズにスタートできる。

⇒短い活動期間をより密度の濃いものにするために、東京でもできることは事前に東京で行う。

### 活動中

・その日の活動内容や、残りの期間で何を行うかについて個人ごとに認識のズレがあった。

⇒学生だけで行う確認時間を設定し、常に情報が共有されるように、連絡や疑問の解消は細かく行う。

・少人数ならではのチームワークがあった。メンバーひとりひとりの良いところが生きていたと思う。

### 活動後

・参加者4人が感じたことを、もっと多くの人に伝えたい。活動中に Facebook で活動報告を行っていたが、それだけでは情報の拡散力は弱いだろう。

⇒今年の夏の活動後には報告会が行えるよう準備を進める。

・自分たちのいない間のファームの様子がわからない。活動が断片的になってしまう。

⇒可能であれば定期的に視察に行きたいが、費用や現地での移動手段が課題。

⇒連絡先を交換した住民の方、Child Fund Japan のスタッフさんと定期的に連絡をとり状況を聞く。



### 【印象に残ったこと】

去年の9月にも大船渡で1週間活動し、その活動報告会で『ボランティアってなんだろう』というもやもやは残っている。ただ、とにかく行ってよかった。」と感想を述べました。GWの活動に参加し、ボランティアに対する考え方、自分なりの向き合い方が前よりもはっきりとしてきたような気がします。

今年の夏にもまた大船渡へ行くつもりですが、それはただただ「大船渡が好き」だからです。大船渡へ行かなければ出会えなかった人達、そして自分がいました。活動を続けるうちに、1年前に頭にあった、「誰かの為にボランティアをする、というのはなんだかしっくりこない」というもやもやはいつの間にか消えていました。「ボランティア」という言葉自体、「自発的に」といった意味合いでしかありません。今回の活動を経て、そもそも「誰の為？自分の為？」といったことを考える必要はないのではと思い、少しすっきりしました。「とにかくどうしても行ってみたいから」と、直感からはじまった（というよりも理由を言葉にできなかった）私のボランティア活動ですが、継続することで見える風景が変わってきたように思います。

友人の中には、「ボランティアという言葉に抵抗がある。誰かの為に何かをやる、ということが偽善に思えてしまう。」という人もいます。私も以前はそういう気持ちがありました。それでも、自分の目を見て、知らない世界や人と出会って、考え方が変わりました。そういう経緯もあり、この友人のようにボランティアという言葉のイメージが、活動に参加しづらい壁になっているという話を聞くと、とても歯がゆく感じます。

昨年夏、そしてGWに大船渡へ行った今の私にできることは、その壁を少しでも壊すことと、この活動を続けることです。続けることで、また違った風景と出会うのでしょう。会いたい人、出会ってみたい景色が大船渡にたくさんあります。私にしかできないことは少ないかもしれませんが、私にできることは全力でやりたいと思います。

## 5. 会計報告

### 2012 年度 GW ボランティア派遣会計報告

2012 年 5 月 2 日～2012 年 5 月 6 日

#### 収入の部

科目	金額	摘要
交通費	64,310	学生の夜行バス代
合計	64,310	

#### 支出の部

科目	金額	摘要
交通費	64,310	学生の夜行バス代
合計	64,310	

上記の通り報告致します。

2012 年 5 月 20 日

Youth for Ofunato 代表 永田光央